

“Optical Variations -オプティカル・ヴァリエーション-” : MB&F M.A.D.Gallery にてダミアン・ベネトの素晴らしいキネティック・スカルプチャーを展示

M.A.D.Gallery は、フランス人アーティスト、ダミアン・ベネト氏のイルミネーションを施した幻惑的なモノクロモビール4作品にスポットを当てた、素晴らしい“オプティカル・ヴァリエーション”を展示中です。

カメラマンとしての教育を受けたベネト氏は、まるで光に触れるかのような演出で光を賛美するアートを創作しています。

「私の作品創りは、写真というバックグラウンドと密接に関わっています」とベネト氏は語っています。「このミニマリストなキネティック・スカルプチャーに、光に関するすべての知識を込めました。写真と同様に、光を活用して一種の視覚的な効果を生み出しています。」

まさにその通り、光を彫刻して生み出した作品は遊び心が効いておりエネルギーを放ちながらも、コントラストに満ち溢れ、魅惑的な視覚効果を引き起こします。

ベネト氏のキネティック・アートへの関心を刺激したのは、彼自身が撮った写真シリーズです。白い部屋に吊るされ、天窗からの明かりのみで照らされた白い風船。明かりの条件が変化することで、物の立体感の知覚が異なる現象に取り憑かれたのです。

更に動きを投じることによって、“オプティカル・ヴァリエーション”が誕生しました。

ベネト氏は「力学や機械には常に興味を持っていました。私の作品の中の幾何学的な審美感、質素、シンプルな混和に見られるように、ミニマリスト彫刻から大きな影響を受けました」と語っています。

ベネト氏の創作プロセスは、紙に様々な形状を描くことから始まります。そして明かりの環境条件を様々に変化させてとらえたこれら形状の視覚効果を試します。次いで、これらアイデアをコンピューターに取り込んで、彫刻の技術詳細を公式化してから、最も時間を要する彫刻の段階に移るのです。

ベネト氏の言葉によると、「ひとつの彫刻制作にはおよそ3ヶ月から6ヶ月の作業時間を要します。その大半を作品に対する光の効果の実験に費やしています」。

ベネト氏は表面を陽極処理することで漆黒に変色する軽量金属、アルミニウムでの作品作りを好んでいます。漆黒の表面に LED 照明を当てると、グレーの絶妙な色合いのフルスペクトルが表れるのです。

自身のアトリエで作業するベネト氏は機械類に明るく、ミリング加工、研磨、旋盤を利用して作品の構造を練りますが、この段階を創作プロセスにおける極めて重要な局面であると認めています。

M.A.D.Gallery にて展示されている彼のインスタレーションのうち 3 点は、振り子の振動と光を掛け合わせ、幻惑的な現象を演出しています。

“スペーシャル・ヴァリエーション”では、金属製ボールが決められたコースをゆっくりと振動し、光がまるで生きて呼吸しているかのように周囲の空間に光と影を映しだします。

“レングス・ヴァリエーション”は動く光源を用いて、くぼんだ構造を介すことにより光を眩い閃光のごとく反射させ、灯台の発するシグナルを彷彿させます。

詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36.

“サーキュラー・ヴァリエーション”はイルミネーションを放つリングであり、端から端へと一定した間隔で揺れる振り子と相俟って徐々に現れたり消えたりすることで、天体を囲む輪の印象を与えます。

対照的に“スフェロリット”では揺れ続ける振り子よりもむしろ、静止点から放たれる光を主役としています。光はまるで心臓の鼓動のように一定し、静かに、計算し尽くされたリズムで脈を打っています。

展覧会に関してベネト氏は、物体を通過して動く光の周期的な特質を探索しているので、「時間、空間、実体のない力といった概念が集っています」と発言しています。

ベネト氏は、彼の作品の鑑賞者が、ディテールや技術に捕われず、そこにある抽象的な性質と光の彫刻がもたらすユニークな効果に注目することを望んでいます。

スペーシャル・ヴァリエーション、サーキュラー・ヴァリエーション、スフェロリットは各3点、レングス・ヴァリエーションは7点の限定作品です。

ダミアン・ベネトの経歴

ダミアン・ベネトは、1971年にフランスのライ＝レ＝ローズで誕生しました。

写真で学位を取得後、人物写真を専門とする MPA 通信社に就職。その間、著名なフランス人コンセプチュアルアーティストのヤン・ケルサレ氏の下でも働き、フランスの「Pont de Normandie (ノルマンディーの橋)」や「“Parabola” in Cahors (カオールの“パラボラ”）」など題材に基づいた写真レポートを編集しています。

ベネト氏はその後、建築物の撮影に移行し、1998年にはファッションに焦点を当てたカメラマンの共同体“レ・シクロップ”を創設しました。この共同体が発信した画像は、世界中の雑誌や新聞紙に掲載されています。

カメラマンから光の彫刻アーティストに転身したベネト氏の作品に、パリのギャラリー「マティアス・クロー」が注目し、展覧会も行っています。

今後の自身のアートの方向性に関して、ベネト氏は「動く光、そして立体感と素材の微妙な変化に対する研究を、ミニマリストな彫刻で追い求めるつもりです」と語っています。

ベネト氏は現在、パリ郊外のイヴリー＝シュル＝セヌを生活および活動拠点としています。

詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36.